



ささ りん どう 笹 竜 胆 だより



教育目標「自ら考え 互いに助け合い 粘り強くやり抜く生徒」

令和8年度 阿木中学校通信 令和8年9月4日
校長 齋藤 篤史

「熊から命を守る方法を考える会」まとめ

日時	令和8年9月1日(火) 6限
場所	中津川市立阿木中学校 視聴覚室
講師	阿木地区の猟師：今井 忍さん <校長からPTAを通じて依頼(阿木中生の保護者でもある)>
形式	講話+質疑応答(全学年対象)
ねらい	野生動物の理解を深め、遭遇時に自分で命を守れるようにする
学習課題	猟師の話・対話を通して、熊ほか野生動物の生態と環境の変化、遭遇時の対処法を学ぶ



1. 導入:生徒が話し合った「野生動物への不安」 <講師の問いかけに生徒から出た意見>

- ・ 小学校時代に猿がよく出て、心配。
 - ・ 猿が目の前に立ちふさがったことがある。
 - ・ 人慣れした個体が多く、熊スプレーや鈴でも逃げてくれないのでは。
 - ・ 対策はしているが、「いざ手に負えない生き物に会ったらどうしていいかわからない」
 - ・ 野生動物の死骸や猿との遭遇を最近よく耳にする。
- この意見から「サルの話」「クマの話」へと展開していきました。



2. サルの話《生態と対策》

- ・ **社会性のある群れの動物。**日本の猿の群れは女系集団で、一番の実力者は「大おばあちゃん猿」。
強いのは体格の大きなオスだが、群れを統率・誘導するのは祖母猿。
- ・ 群れで生まれたオスは近親交配を防ぐため大人になると追い出され、「はぐれ猿」として他群れに合流する。
- ・ **一番の対策 = 群れのリーダー(祖母猿)に「ここは危ない場所」と覚えさせること。**ロケット花火などをぶつけ、集落を猿の縄張りだと思わせない。電柵や網では猿はどこからでも侵入し、稲を食い荒らす。
- ・ 遭遇したら:石を投げない・群れの真ん中に入らない・相手が去るのを待つ。大群なら無理に戦わず、怪我しない最善策を選ぶ。襲われたら近くの棒を探して防御、最悪は反撃(突く)。
- ・ 野生動物は「怪我をするのが何より嫌」という共通ルール(病院がないから)。刺激しなければ襲われることは多くない。



3. クマの話《生態と「地域差」の重要性》

- ・ **全国でクマ出没が増加していますが、ニュースで多い東北(岩手・秋田・新潟)の話とこの地域の状況は切り離して考えるべき。**植生・人口密度・個体の動き方がまったく違う(東北はナラ枯れの問題などある)。
- ・ この地域(東濃地方・恵那山系)のクマは身近な山の食べ物を食べて生活。「一つのクマ」とひとくくりを考えないことが大事。
- ・ **人慣れした個体が増えている理由:**山から下りて人里近くで餌を食べることが増え、人間活動への警戒心が薄れてきたもの。クマは「臆病」ではなく、警戒心が強いだけ。



4. 熊スプレー《正しい理解が大事》

- ・ ホームセンターやネットなどで、数百～数千円の商品が乱立し、「実績のない粗悪品が出回っている可能性」。政府が規格指針を作り始めたところ。
- ・ 購入するなら、**実績があるか調べてから。**
- ・ 使い方のポイント:安全ピンを抜いてから噴射、**最長10秒しか出ない。**実際の緊急時には素早く(1秒以内にピン抜き)使えるよう**何度も練習が必要。**最後の最後の切り札であり、「持っていれば安心」ではない。

5. クマ鈴《有効だが注意も》

- 山・畑・山間の通学路などでは、自分の存在を知らせるクマ鈴は今でも有効。
- ただし好奇心で近づいてくる個体のごくまれにいる。山菜採りなどで動きが止まり鈴が鳴っていないこともあるので、止まったら鳴らし直す。
- クマは川沿い・沢沿いを好んで移動するので、沢や橋の近くは特に注意。

6. 実際の事故例《坂下の高校生襲撃(2025年)》

- 昨年(令和7年)坂下地区で高校生がクマに背後から叩かれ負傷。
「1ヶ月以上前から川沿いで親子グマの目撃情報が続いていた」。
- 今井さんの見解：被害者はイヤホンで音楽を聴きながら(ながらスマホ)歩行しており、断定はできないが、周囲の異変に気づけず、親子グマの間に挟まった可能性が高い。
- 教訓:山の中ではイヤホン・ながらスマホはしない。周囲の音や違和感(ガサガサ等)に注意が命を守る。



7. クマを見分ける《カモシカ誤認・実物教材》

- クマの目撃情報の何割かはカモシカの誤認。
カモシカは個体差が大きく様々な色・体型があり、後ろ姿がクマに似る。
- 実物のクマの毛皮(漆黒・真っ黒)、乾燥したクマの掌、クマの糞(拳大)、牙を提示。
- 本州にいるクマは、ツキノワグマ(漆黒の黒)だけ。
北海道のヒグマやアメリカのクマは、この地域にはいない。
- 大きさの目安:立ち上がると約1m20cm ~ オスの大きい個体だと約1m80cm、その身長の子が手を振り回した時、頭をやられるのが、頸動脈周辺。



8. いちばんの核心《遭遇したときの身の守り方》

<遭遇した時(一定の距離がある場合)>

- 絶対に大声を出さない・絶対に走って逃げない。
(後ろ姿を見せると追いかけてくる。犬と同じ。)
- 相手の様子をじっと観察する。
警戒心の強いクマは、よほどのことがない限り襲ってこない。



<襲ってこようとする時>

- タメを作ったら、手を振り回してくる。→ 追跡/白熱の前に、伏せる。

<どうしても襲われてしまった時>

- 腹ばいになり、首と顔を守る。腕で首周りをガード。
- 足を広げて踏ん張る。(足を閉じると簡単にひっくり返され、腹を裂かれる)
- 首噛まれ対策。顔をめくられるより、背中や足の傷なら生きて帰れる。「命が助かる選択」を優先。
- 戦うのは究極の緊急対応(空手の達人が竿で反撃し生還した例はあるが3ヶ月入院、指もちぎられた)。
基本は戦えないと考える。



その他の心得

- クマは驚いて襲う。
今のところこの地域では「食べるための襲撃」はないが、将来食い慣れた個体が出ない保証はない。
- 人間が山を管理している「里山」を維持すること自体が最善の鳥獣被害対策。
- クマを見つける目を育てるには山に出て(音・痕跡・違和感などの)観察力を磨くのが近道。
クマの鳴き声は種類が多いので、YouTubeで一度聞いておくと判別の参考になる。

9. 質疑応答のハイライト

- サルの群れの規模：数十匹(50匹程度まで)が目安。
- 襲われた時の対処：噛まれないように、棒で防御、最悪は突く反撃。
- クマが人を食べるために襲うのか → この地域では「怖くて(驚いて)襲う」。地域ごとに事情が違う。
- 講師自身、クマに急接近された経験もあり、よほどのことがない限り襲われないと実感している。



まとめ 「正しい知識で怖がりすぎず、遭遇時の行動を事前に身につけること」

- ①音に注意する
- ②鈴を付け、動きを止めない
- ③熊スプレーは練習して緊急時に備える
- ④遭遇したら走らず観察、襲われたら首と顔を守って伏せる
- ⑤山を大事にし、人と動物の距離を保つ

【生徒たちの感想（一部）の紹介】

クマの印象が今回でかなり変わりました。クマについて色々質問したいことがありましたけど、自分のタイミングがわからずに聞くことができなかったけど、クマの対処法やサルやシカなど知れました。シカがあんなにも種類があることをして、話を聞く前より変わったと思いました。

今回の会で「クマからどうやったら命を守る行動ができるか」や「もしあったときどうするか」を学ぶことができてよかったです。これから、もしクマに遭遇してしまったら、首を守り体制を低くするという今日学んだことを実践できるといいとおもいました。

今回の話を聞いて、俺の帰り道には少し山に入るところがあるので、そのような場合でも落ち着いて対処していきたいと思ったし、鹿と熊が似ていたりするって聞いたんで、勘違いもほどほどにしていきたいと思った。将来は福岡に行くつもりなので、福岡のクマの種類とかも今後調べていきたいと思った。

話を聞いて、自分はまだクマにあったことがなくて、あまりイメージがなかったけど特徴や対処法を聞いて山に入るときは周りに気をつけたり、鈴をもって歩いたり襲われないようにしようと思った。そして、襲われたときは、痛いけど伏せたり身を守ったりできるようにしたい。

熊にもし遭遇したら、まず今井さんが言っていたように背中を向けずにゆっくりと逃げたいと思いました。万が一襲われそうになった場合は、伏せて顔や首を守れるような行動を実践したいと思いました。自分の近くにはよく猿が出るので、襲われないような行動を取りたいです。

今日は、熊に襲われたときには、肩幅に足を開いて、伏せることが大切ということを知ることができました。なので、これからもしあってしまうようなことがあったら、今回知ったことを実践してみたいです。

また、猿の一番えらい人はオスかなと思っていましたが、おばあちゃんザルが一番強いことを初めて知りました。新しい発見があり、とても面白かったです。ありがとうございました。

猿はよく家に近くに出たりするので特に気をつけたいと思いました。クマは見たことなどはないけれどいつ出会ったとしてもおかしくないののでしっかり対処の仕方などを聞いたので良かったです。

クマとカモシカでは、毛皮の色がぜんぜん違うことに驚きました。もう少しクマも茶色っぽい毛だと思っていたので、比べたときにぜんぜん違うと思いました。

家に獣がよく出ることがあるけれど、ここは人間の住む場所と理解してもらえようにしたい。

登下校などでよく、山の中を通ったりするので鈴をつけたり、ガサガサという音には気をつけれるようにしたいと思いました。クマは自分たちが住んでいるところのクマと、東北などに住んでいるクマとでは、生活の仕方や人里に降りてくる理由などが違うということを初めて知りました。また、サルも最近よく見たりするので刺激しないことを意識して生活したいです。

自分の家の近くでたくさんクマが出た情報がたくさんあるので、普段から鈴をつけたりして対策したいと思った。スプレーを買うときはしっかり使えるかを調べてから買いたいと思った。遭遇してしまったときは落ち着いて声を出したり、走ったりせずにゆっくりとその場を離れたいと思った。

私の周りでも熊の足跡をみたことがある人や熊らしきものをみたことがあるっていう人がいたので心配していたけど、今日教えてもらった手の大きさとか、毛の色とかをしっかり覚えて、外を歩いていてもイヤホンとかをつけずに周りに警戒できるようにしたいと思いました。

今日、クマについての話を聞いて、クマに遭遇してしまったら、背中をクマに向けずに視界にクマを捉えながら逃げるのが大切だとわかった。クマに会ったときはできるだけ落ち着いて行動したい。クマの毛皮や手を触ってみて、意外と毛は固く、爪はとても尖っていて危ないと思った。

「クマすずは、クマ以外にも通用するのか」話を聞いていて考えました。感じたことは、熊はやっぱ怖いなと思いました。これからもクマすずをつけて登下校したいです。また、できるだけ、登下校するときは複数人で帰りたいと思いました。山にはできるだけ一人では行かないようにしたいです。

今回は貴重な話をありがとうございました。今日聞いた話は家族みんなに共有したいです。

話を聞いて、最近是人慣れしているクマや、冬にも動いているクマがいたりして普通の近い山とかにいる可能性は0じゃないので、今日教えてもらった首を守って伏せる方法や対策をしていきたい。

クマは、他の野生動物より明らかに黒色なので、明るい昼間は気づくかもしれないけど、夜は暗いので熊鈴や迎えを読んだり、急きよのことに対応できるようにネットで調べておくようにしたい。

クマが予想以上に黒いんだと思った。地域によってクマは個体が違って、クマにあったらすぐに襲われると思ったが、後ろ姿を見せないのが大事とした。クマスプレーは今使えないやつもあるから、買うときにはちゃんと調べてから購入すること、使う練習をしていきたい。クマは1mを超えたら親グマだから、ちいさいからこぐまと思わずに、クマにあったら基本は逃げることを優先したいと思いました。これからは襲われかけたら、伏せて首を守るそして、足を広げるのを意識したいし、クマとイノシシ、シカの違いも間違えずに通報できるようにもなりたい。

私は一度熊に出会ったことがあります。ずっと子熊だと思っていたけれど親熊かもしれないと聞いてとても怖くなりました。これからはランニングや通学の時、しっかり熊鈴をつけて、クマみたいな動物を見かけたらできるだけ近づかないようにして警戒したいです。飯沼には、熊よりもイノシシがたくさん出るので、そっちも刺激しないようにして、より安全にできるだけ遭遇しないようにしたいし、動物なんて逃げ切れると思ってたけど、私にはまず無理だと知ったので出会わないことに全力を尽くしたいと思いました。

今日の話を書いて、熊についての考え方が変わりました。話を聞く前は、熊は怖くて凶暴で臆病で、人とも食べる動物という印象でした。でも、話を聞いて、熊は臆病なのではなく、警戒心が強くて、警戒心が薄れていくことで人前に現れたりするということがわかりました。東北地方とかで人が熊に食べられるというニュースを見たことがあって、ここでも食べられたりするのかなと思ってたけど、東北地方のほうと一緒にものじゃなくてちょっと違うものと考えたほうがいいということがわかりました。

もし熊に出会ってしまったら、すぐに後ろ向いて逃げるんじゃなくて、相手の様子伺って背中を見せずに逃げようと思いました。遠くにいるときに気づけるように、山の中で「ながらスマホ」したり、イヤホンつけて歩くのはやめようと思いました。

家の畑とかにもたまに猿がでたり、田んぼにイノシシとか鹿が出たりしていたから、いい話を聞いたなと思いました。クマは会ったことないけど、これからであったりすることがあるかもしれないから、今回の話を活かして死なないように頑張りたいです。首とか顔は守れる気がしないけれど、這いつくばってみようと思いました。戦おうとか思わないから、まず死なないようにしたいです。

初めてクマの毛を触ったけど、硬かったからなんか人と違うなって感じがしました。イノシシも久しぶりに顔をまじまじと見たけれど、凶暴な顔しててびっくりしたし、鹿もかわいい顔して車に突っ込んでくると考えたらこわくなってきました。

今日話を聞いて、熊は、茶色の毛に、凶暴のイメージが合ったのですが、黒の毛に警戒心が強い動物ということがわかりました。熊に遭遇したときには、叫んだりせず、落ち着いて様子を見て近づいてきたら、すぐに、首と頭を守り、死なずに生きたいと思いました。また、熊鈴をつけていくこともとても大切だと思い、熊が山から人里に降りてこないようにしようと思いました。このことを、家族に伝えていきたいと思います。今日は大切なことを教えていただきありがとうございました。

僕は、今日話を聞いて、まず猿はおばあちゃんがボスであることを初めて知り、群れにあってでもできるだけ遠回りしていくことが大切だとわかりました。

熊に対しては熊鈴がいつもつけているけど、結構有効なことがわかりました。また、熊は川の近くをよく通ることに驚きました。熊の毛皮は黒く犬みたいな感触で爪が結構鋭くこれで引っかかされると怖いと思いました。熊と遭遇したときは、とにかく生きることが最優先で、戦って生還した人も空手など本当に強い人だけなので、首や頭を守るようにしたいです。熊や動物の異変に気づくには森に行つてよく山を知ることが必要だと知ったので、山にたまにでも入って異変に気付けるようにしたいです。

今回の話を聞いて、猿という動物は集団で行動していることが多く、リーダーはおばあちゃん猿ということを知りました。もし、猿が出でしまったら猿に囲まれないようによく考えて行動したいです。

熊は、鹿とかよりも思っていたより、黒くてびっくりしました。もし、出会ってしまったら焦らずに、背中を見せないように考えて行動したいです。もし近くに來てしまったら首と顔を守るようにしたいです。また、熊鈴をつけることが大切だと思いました。今日は、貴重なお話をしてくださりありがとうございました。

政府広報オンライン 2026年6月8日

「【クマ出没に注意!】

クマにおそわれないための3つの約束」公表(動画)

<https://www.youtube.com/watch?v=-OB-2yPMi08>

